

# 令和4年度事業報告

自：令和4年4月1日 至：令和5年3月31日

## 1 一般情勢

令和4年度は、前年度からの新型コロナウイルスの影響を受けた配合飼料原料、生産資材価格の上昇により、畜産経営が大きな打撃を受けている中で、2月末に勃発したロシアによるウクライナ侵攻により、一気に円安が進み、配合飼料原料、生産資材、エネルギー資材が世界的に高騰、入手困難になった。このため、政府は「コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」（令和4年4月26日）新型コロナウイルス感染症対策」を実施し、7月にはその更新も行ったところである。

しかしながら、配合飼料価格の高騰は、配合飼料価格安定基金の交付金額以上で進み、また、エネルギー資材を始め、生産資材費が高騰、高止まりとなっているうえに、入手が困難な資材もあり、かつて経験したことがないような畜産経営にとっての危機を迎えた。

さらに、豚熱（ぶたねつ）の発生は続き、鳥インフルエンザは早期から全国各地で発生し、卵の安定的供給にも支障をきたしている。

こうした全体情勢の下で進められた令和4年度の全日畜活動は、with コロナでの対応で実施し、畜産振興事業をはじめとした各事業は、ほぼ当初の計画どおり実施し、特に畜産振興事業は計画を上回る成果を上げた。

## 2 事業報告

飼料及び生産資材価格の高騰が続く中での、想定外のロシアによるウクライナ侵攻等による急激な円安、飼料及び生産資材費の更なる高騰高止まり、入手困難と未曾有の畜産経営の危機的状況となったなか、全日畜は商系の畜産経営者の支援を事業方針に掲げ、令和4年度の事業活動として次の取組みを実施した。

### (1) 畜産振興事業

#### ① 農畜連携による畜産経営の強化調査事業（JRA 事業）

令和3年度から実施した JRA 事業「農畜連携による畜産経営の強化調査事業」の最終年度を実施した。令和4年度は全国2カ所でワークショップ「農畜連携に

よる地域資源の有効な循環を考える」開催し、合わせて 130 名余りが参加した。それぞれのワークショップでは地元TV、新聞からの取材もあり、ニュース、紙面で紹介された。また、調査の集大成として、12月に調査で得た取り組み事例等を全国から畜産経営者の代表等が参加して千葉市でシンポジウムを開催し、講演の様子はホームページ上で動画配信するなど普及に努めた。さらに、2年間の調査結果を整理とりまとめた「事業成果報告書」及び「畜産経営者のための農畜連携指針」を作成し、ホームページで公表を行った。

## ② 多角化による畜産経営強化調査事業（JRA 事業）

令和4年度の新規 JRA 事業に応募して採択された「多角化による畜産経営強化調査事業」を実施した。本事業は、我が国では農業の6次産業化が推進されている中でまだ課題も多く、そこで、商系畜産経営者の事例調査、意見交換等を通じて、今後の6次産業化を含めた多角化経営の発展方向や成功のためのノウハウ、失敗しないための留意事項などを「指針」として作成し、これから加工、販売、輸出等を志向する畜産経営者に供するとともに、我が国畜産の振興に資する事業で、令和4年度はまず、実態調査として全国5畜種の畜産経営者を調査対象としたアンケート調査を実施して374件を回収して解析を行った。多角化の体験・課題等について意見交換を行うワークショップについては全国3カ所（青森県、千葉県、山口県）で開催し合わせて96名が参加した。一年次の活動を取りまとめた「調査報告書（中間報告）」を作成し、ホームページで公表を行った。

## ③ リース事業及び畜産クラスター事業（過年度の ALIC 事業のフォロー）

過年度に、事業実施主体として参画したリース事業等について、その後の情勢変化等に起因して事業参加者から申請のあった経営承継等の諸手続きについて、適切に実施した。

## (2) 要請事業

### ① 国会議員への要請

9月16日に全日畜の金子理事長ほか役員が、野村哲郎農林水産大臣（参議院議員）と面会し、大臣から生産現場の窮状は良く理解している旨のお話をいただいた。

12月21日に全日畜の金子理事長ほか役員が、衆議院議員会館で、森山衆議院

議員と面会し、生産現場は非常に危機的な状況であることを述べ、より一層の支援を要請した。また、参議院議員会館の野村参議院議員の事務所を訪問し、同様に生産現場の非常に危機的な状況を述べ、より一層の支援を要請した。

## ② 行政当局との意見交換

ロシアのウクライナ侵攻等による急激な原油や物価の高騰に対する原油価格・物価高騰対策を政府が策定するに際して、生産者の声を行政に届けて施策へ反映されることを期して、4月11日に全日畜の金子理事長ほか役員が、農林水産省畜産局飼料課を訪問し、課長ほか担当者に生産現場の現状・要望を伝え、意見交換を行った。

## (3) 広報及び情報発信事業

### ① 会報「全日畜だより」

会員への情報提供を目的に発行している会報「全日畜だより」について、継続して全日畜の活動状況等の情報について発信を行った。今年度は、全日畜だより第51号から第56号までの6回の発信を実施し、ホームページでも公表を行った。

### ② ホームページ

全日畜活動、成果資料等の検索をより容易にできるように、7月にホームページの見直し改良を行った。

受託した畜産振興事業の調査成果について、ホームページの「資料室」に掲載して広く公表した。また継続して、毎月「畜産物価格の概況」、「飼料穀物の需給見通し及び輸入原料事情」を畜産情報として掲載を行った。

### ③ ホームページでの講演動画の配信

より多くの関係者に情報を普及するため、WEBを活用した情報発信を行った。本年度は、全日畜シンポジウムでの講演6題を公表した。

## (4) 関連団体（工業会・全日基・基金協会、等）との連携事業

### ① パネルディスカッション

工業会と共催で「流通業者の期待する畜産生産物～日本の畜産物のこれから～」

と題したパネルディスカッションを WEBLIVE 配信方式で開催し、約 80 名の参加者があった。

② 基金協会理事長会議

高崎市で開催された関東甲越ブロック（1 都 8 県）基金協会の理事長会議に工業会・全日基とともに参加し、活動状況報告等を行った。

WEBで開催された山口・九州地区理事長・常務理事合同会議に工業会・全日基とともに参加し、それぞれ活動状況報告等を行った。

③ 基金協会新任役員研修

WEB開催された基金協会新任役員研修に工業会・全日基とともに参加し、活動状況報告等を行った。

④ 地域全日畜・県全日畜講演会

山口県全日本畜産経営者協会「公開研修会『国内におけるアニマルウェルフェアの取り組み状況と今後の方向』」に参加した。

北海道全日本畜産経営者協会セミナーに参加し、活動状況報告等を行った

関東甲越・千葉県全日畜主催の「畜産講演会『飼料用米活用のための講演会』」を後援するとともに、参加した。

⑤ （一社）畜産生産者団体協議会事業（ALPO 事業）

全日畜が団体加盟している畜産団体「一般社団法人畜産生産者団体協議会（ALPO）」について、引き続き、協議会事業（畜特事業等）の運営等に参画した。

(5) 総会及び機関会議等

① 定時社員総会

令和 4 年 6 月に予定した第 14 回定時社員総会については、コロナ禍が終息しないことから前年度に引き続き書面総会で実施した。

議案審議では、令和 3 年度決算の承認と、JRA 事業として新規採択された「多角化による畜産経営強化調査事業」などを追加した予算、事業計画についても了承された。昨年に続き「総会記念全日畜セミナー」については開催を見送った。

② 理事会

令和4年度は4回の理事会を開催した。

開催日：5/18 : WEB (Zoom 会議) 型理事会

9/16 : 集会型理事会

12/23 : 集会型理事会

3/22 : 集会型理事会

③ 運営委員会

令和4年度は4回の運営委員会を開催した。

開催日：5/11 : WEB (Zoom 会議) 型委員会

9/1 : WEB (Zoom 会議) 型委員会

12/9 : WEB (Zoom 会議) 型委員会

3/15 : 集会型委員会

(6) 組織強化事業

① 第二世代の全日畜の在り方

「第二世代の全日畜の在り方検討」で出された方針に基づき、生産者から信頼を得られるような上記5事業を積極的に行うとともに補助事業の報告書やセミナーさらにWEB等も活用して生産者へ情報等のフィードバックを継続することを通じて組織の体制強化に努めた。

② 賛助会員

年間をとおして、全日畜の活動等について、理解と賛同をいただく賛助会員の加入活動に取り組んだ。

令和4年度賛助会員数：29 団体